

# 健康経営の取り組み実績（2022年度）

※データの集計範囲は国内グループ会社

## ■ 施策と取り組み結果

中期健康管理施策（健康Action2025）：別紙 取り組み実績

### ● 健康保険組合との協働施策

がん検診受診率(定期健康診断と同時に実施しているがん検診)	2022
胃がん	64.0%
大腸がん	83.7%
乳がん	68.8%
子宮頸部がん	65.2%

### ● 健康関連データ分析 ※データの集計範囲はセICOエプソン単体

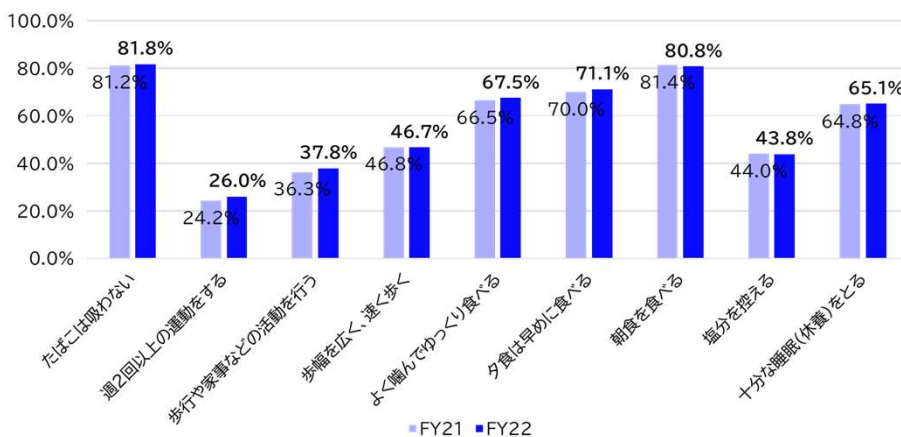
その他の施策		2022	2021	2020
遵法	定期健康診断受診率	100%	100%	100%
	ストレスチェック受検率	98.4%	99.5%	99.6%
	定期健康診断後のハイリスク者への保健指導実施率	99.5%	98.5%	97.5%
	脳・心臓疾患の休務者割合	0.11%	0.16%	0.09%
	施策に対する従業員の満足度	84.1%	—	—

## ■ 取り組み効果実績

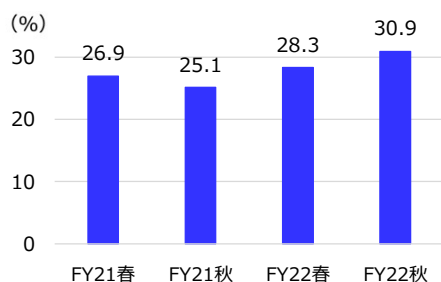
### ● 意識変容・行動変容に関する指標の取り組み効果

#### 1. 健康的な生活習慣行動の増加

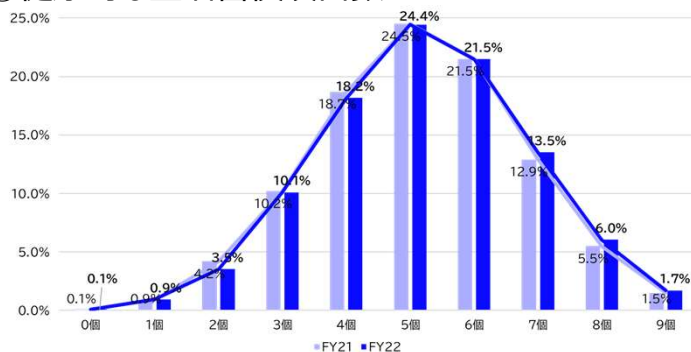
##### ① 健康的な生活習慣9項目の割合



##### ② 全社統一ウォーキングイベント参加率



##### ③ 健康的な生活習慣項目数



健康的な生活習慣行動のうち運動に関する3項目が低く、特に運動習慣のある人の割合が最も低い。そのため、全社ウォーキングイベントを開催した。経営層を巻き込み、事業所対抗やチーム対抗でみんなが参加したくなる環境を整え、さらに健康保険組合のアプリを利用してインセンティブを付与するなどの取り組みを行った結果、参加率が増加した。

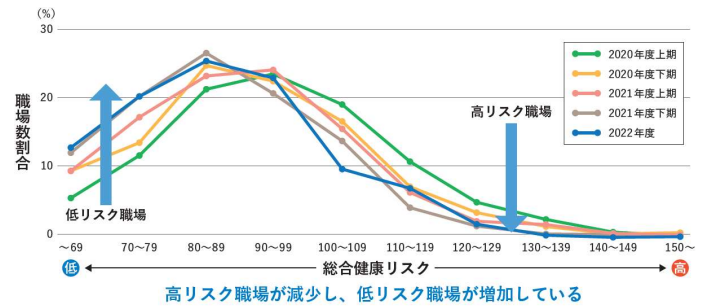
その結果、運動習慣のある人の割合が増加し、健康的な生活習慣項目6項目以上の割合も増加に繋がった。

## 2.良好職場の増加

### ①職場への支援活動 ※データの集計範囲はセイコーエプソン単体

支援項目	対象	目的	内容
結果分析サポート	課長	結果を正しく読み解き、改善につなげる	・結果の見方 ・改善検討
MIRROR調査	職場	職場改善のヒントを見つける	・調査実施 ・結果フィードバック
ワークショップ(対話会)のファシリテート	課長	職場改善に向けて課長、関係者で知恵を出し合う	・結果の理解/分析 ・改善事例の共有 ・改善に向けた検討
	課長メンバー	「ポジティブな側面」に着目し、対話により職場改善へつなげる	・職場のありたい姿の検討 ・職場全体での取り組み事項の検討
個別面談の実施	課長メンバー	職場の課題確認	・第三者による安心して話ができる場の提供
定期的な職制フォロー	課長	困りごとの確認/支援	・計画の進捗確認

### ②ストレスチェック集団分析結果の推移



メンタルヘルス不調に至る要因の1つに職場環境があげられ、高リスク職場は休務発生率が高いことから高リスク職場ゼロを目標に掲げ、2020年度より本格的に職場改善活動の取り組みを開始した。2020年度高リスク職場割合5.9%が2021年度は3.6%に減少したが、更なる減少に向けての取り組みが必要である。

そのため、高リスク職場は職場改善の計画を立案し、事業責任者の確認のもと改善活動を実施した。さらに、高リスク職場および支援を求めている職場に対し、担当部門が職場ヒアリング、ワークショップ、個別面談などの支援を実施した。

(実施率100%)

その結果、高リスク職場の改善活動により2022年度高リスク職場割合は1.2%に減少した。

### ●健康関連の最終目標指標 ※データの集計範囲はセイコーエプソン単体

	2022	2021	2020
プレゼンティーズムの低減 *1	17.5%	17.2%	—
アブセンティーズムの低減 *2	1.59%	1.77%	1.56%
ワークエンゲージメントの向上 *3	2.49Pt	2.42Pt	2.46Pt
自主的離職率の減少	2.2%	1.5%	1.4%

\*1 測定方法：SPQ(東大1項目版)回答の平均値を100から引いた値 2022年度実績：測定人数11,854人 回答率97.7%

\*2 測定方法：1週間以上休務した脳・心疾患及びメンタル休務者の割合 2022年度実績：測定人数12,798人 回答率100%

\*3 測定方法：新職業性ストレス簡易調査票(短縮80項目版) 2022年度実績：測定人数11,854人 回答率97.7%